

令和7年1月6日発行（第193号）

こうじえん

普及センターだより

# 耕耳苑

いわてアグリ  
ベンチャーネット  
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター  
岩泉普及サブセンター  
いわてアグリベンチャーネット

TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631  
TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806  
<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



## 年頭の御挨拶

宮古農業改良普及センター所長 荻内謙吾

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって、幸多き年となりますようお祈りします。

まず始めに、昨年1月1日の大地震ならびに9月の豪雨災害に見舞われた石川県民の皆様、関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、農業現場では、飼料・肥料など資材価格の高騰や、畜産においては子牛価格の低迷など、農業を取り巻く環境は大変厳しい状況が続いておりますが、農業者の皆様をはじめ関係機関・団体と一体となってこの難局を乗り越えていかなければ、と強く心に刻んでいるところです。また、去年は食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障についての考え方が抜本的に強化されました。

普及センターでは、生産性の高い農業の実現はもちろんのこと、時代の波を超えて地域農業が次代へとつながるよう、農業者の皆様の経営力向上に向けて支援を続けていきます。

今年の干支は、十干十二支では「乙巳（きのとみ）」であり、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。あやかって、農業でも柔軟に発展していくことを願っています。

## 「岩手県食の匠」に竹野牧子さんが認定されました

食の匠認定証書交付式が12月11日に盛岡市において開催され、宮古市の竹野牧子さんが「ごぼう巻」で認定されました。

「ごぼう巻」は、夏に収穫したしその葉を塩蔵し、秋冬期に収穫したごぼうとにんじんを醤油と砂糖、唐辛子の入った調味液で煮た後、しその葉で巻いたものです。宮古地方で冬期間よく食べられている漬物で、しその風味と唐辛子の辛味、ごぼうのかりかりとした食感がよく調和しています。

冬になると各産直で見かけるようになりますが、竹野さんの「ごぼう巻」は、道の駅みやこ（シートピアなあと）内の「なあと産直」で土日のみ販売されていますので、ぜひご賞味ください。



認定料理の「ごぼう巻」



新規認定者の皆さん（前列右端が竹野さん）

【担当：佐藤主任】

## ブロッコリー実績検討会

JA 新いわて宮古地域野菜生産部会ブロッコリー専門部では、今年のブロッコリーの栽培や販売実績を振り返り、安定した生産拡大に向けた意識統一を図ることを目的に、11月26日に岩泉町内の会場でブロッコリーの実績検討会を開催しました。

当日は13名の生産者及び市場を含む関係機関が参加しました。当センターから栽培経過を説明し、品種比較や追肥省略技術実証等の結果を共有したほか、JAから出荷・販売実績と今後の課題について説明がありました。

本年度の春ブロッコリーは過去最高の出荷箱数となりましたが、他産地と競合し単価安となった時期もありました。

生産者からは、実証結果についての質問や今年から初めて栽培された根こぶ病耐病性品種の「アーリーキャノン」について、「揃いが良いのでいっぱいやるととれない」、「玉の形がきれい」などといった感想が多く出され、活発な検討会となりました。

当センターでは今後も関係機関と協力し、ブロッコリーの安定生産拡大に向けて引き続き支援していきます。



【担当:熊谷技師】

## 経営力向上研修会

宮古農業改良普及センターでは、認定農業者等の経営力の向上を目的に令和6年12月10日に宮古地方農業振興協議会と共催で研修会を開催しました。

講師には土岐経営支援事務所の中小企業診断士である土岐徹朗氏を招き、「経営分析及び経営改善・経営発展に向けて」というテーマで決算書の基本的知識や分析方法などについて学びました。

経営分析では、参加者が持参した自らの決算書を用い、損益計算書と貸借対照表の構造と見方や分析方法について理解を深めました。

参加した農業者からは、「このような研修を初めて受けた」、「難しかったが、基本から勉強する必要性を改めて感じた」などの感想が聞かれました。



【担当:名久井上席】

## 酪農青年が組織を立ち上げ

11月12日、岩泉町と田野畑村の酪農青年6名が、組織を立ち上げました。グループ名はITC（岩泉・田野畑酪農クラブ）で、代表には中村匡志さんが選出されました。

普及センターでは、多くの酪農青年に交流の機会を与えること、新規就農者が気軽に相談できる環境をつくることを目的に、今年の春より酪農青年達へグループ設立を呼び掛けていました。ホルスタイン共進会や採草作業等が一段落したこの時期に、グループの設立となりました。

グループの活動計画は決めず、メンバーが提案した都度、視察研修や交流会等を実行することとしています。また、会費は取らず、活動当日の参加者がお金を出し合うこととしています。

普及センターでは、酪農青年達に中長期経営計画の作成を提案しており、ITCの勉強会として実施する予定です。普及センターは、ITCの活動支援並びに関係機関との連携により、酪農経営者育成に取り組んでいきます。



【担当：昆野上席】

## 岩泉町りんご品評会が開催されました



岩泉果樹協会では、岩泉地方における果樹産業の振興を図り、生産者の所得向上等に寄与するため、様々な活動を行っています。

11月22日には、生産者の技術研鑽と消費拡大を目的として、第36回岩泉町りんご品評会を開催し、審査を行いました。品評会は5年ぶりの開催でしたが、「ふじ」や「シナノゴールド」「はるか」等合計32点と多くの出品がありました。これらは、普及センターが中心となり、審査基準に基づき審査を行い、各賞に合計で5点が選出されました。

令和6年度は高温による着色不良に苦慮する生産者も多かった一方、野生鳥獣等の被害が少なかったため、果形の揃いが良く、また糖度も高い傾向だったことから、どれも高品質なりんごでした。翌日の23日には出品されたりんごの展示販売と表彰式が開催され、地域での消費拡大につながりました。

普及センターでは、今後も関係機関と協働し、りんごの生産振興に取り組んでいきます。



【担当：佐々木（絢）技師】

# 令和7年産の稲作に向けて

## 1 令和6年の生育経過

育苗期間が好天に推移し、平年よりも苗が徒長気味の生育となった圃場が多くなりました。

徒長苗の移植や6月第1半旬の寡照により、茎数が不足した圃場も見られましたが、その後の好天により生育は概ね回復しました。

高温が続いたため、出穂期は平年より3日程度早く到達し、成熟期は平年より6日程度早まりました。

収量は幼穂形成期(7月上中旬)が高温に推移したため、平年より一穂粒数が上回り、多収となりました。

登熟期間が高温(特に最低気温が高い)に推移したため、稲体が消耗し、軽微な白未熟粒やその他未熟粒がみられたほか、斑点米カメムシによる被害も例年より多くみられました。

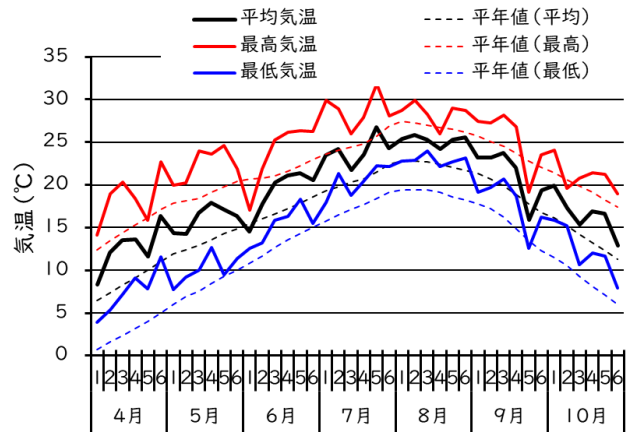


図1 令和6年の気温推移(山田アメダス)

## 2 病虫害の発生状況

生育期間が高温に推移したため、紋枯病の発生が平年より多くなりました。また、登熟期間の高温や多湿条件によりごま葉枯病も例年より多く発生しました。

全県的に斑点米被害が多く、斑点米カメムシ類の発生が多かったと推察されます。また、山田町でクモヘリカメムシの発生が確認されました。

※ クモヘリカメムシは、イネの穂を吸汁し、斑点米被害をもたらす害虫で近年の暖冬により、越冬可能地域が北上してきており、今後、発生が増加し、被害が出る可能性があります。



写真1(上) 紋枯病(古川農試宮野氏撮影)  
写真2(下) クモヘリカメムシ(左側)と  
アカスジカスミカメ(右側)



## 3 令和7年度の栽培に向けて

### (1) 育苗管理

育苗期間が高温となる年が続いているため、ハウスの開閉やプールの水の入れ替え等をきめ細やかにを行い、苗を徒長させないように注意しましょう。また、育苗計画の見直しを検討しましょう。

### (2) 水管理

登熟期間が高温となる年が続いており、登熟を低下させない水管理が重要となります。登熟期間は間断かんがいを基本とし、30℃を超える高温となる場合は、夜間入水やかけ流し等を実施しましょう。

登熟期間以外にも、高温による異常還元(ガス湧き)が見られる圃場があり、生育に影響があるため、ガスが湧く場合、田面を空気に触れさせる、中干しをしっかりと行うなどの対策を実施しましょう。

### (3) 病虫害防除

紋枯病が毎年発生している圃場では、薬剤防除を検討しましょう。ごま葉枯病はマンガン資材や堆肥等の施用による土づくりで長期的な対策を取りましょう。詳しくは普及センターまでご連絡ください。

【担当:小野農普】

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。さて、今年最初の耕耳苑となりましたが、最後までお読みいただけたでしょうか。今年も耕耳苑では皆様にお楽しみいただける内容をお届けしたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(昆野(有))